

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	西淀川区
学 校 名	佃西小学校
学校長名	小西 浩之

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・佃西小学校では、第6学年 105名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は63%で、前年度64%より1%下回った。大阪府平均より-2%、全国平均正答率より-3.8%となっている。無回答率は、1.7%であり全国の3.3%と比べると1.6%良い結果となった。

算数科では平均正答率は、53%、前年度58%より5%下回った。大阪府平均より-5%、全国平均も同じく-5%であった。無回答率は、2.3%で、全国の3.6%と比べると1.3%良い結果となった。

理科では、平均正答率46%で大阪府平均55%より-9%、全国平均57.1%より-11.1%となっている。無回答率は、2.3%で、全国の2.8%と比べると0.5%良い結果となった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討する問題では、全国が53.3%の正答率に対して、本校は39%であり14.3%の開きがみられる。記述式の問題では、どれも全国平均正答率と差異がみられず、国語科の学習で「書く」ことを意識して授業に取り組んだ結果といえる。

無回答率が低い点では、「最後まであきらめずに解答しよう」という意欲の表れである。

〔算数〕

分数の加法に共通する単位分数を見出し、単位分数がいくつ分かを記述する問題では、正答率が12.4%と低い。「もとにする数」「通分」について理解し、長文の問題を読解して記述回答することが難しかったと考えられる。また、数直線上に示された数を分数で表す問題も、単位分数の着目が難しかったようで、正答率21.0%であり、全国から14%下回っている。一方で分数の加法についての問題は、正答率が86.7%と全国の平均よりも5%高く、計算の基礎的な力が育っているといえる。

〔理科〕

鉄やアルミニウムの基本的な性質の理解や電磁石のコイルの巻数による違いなど、基本的な知識に基づく問題の正答率が低かった。特に電磁石のコイルの巻数を多くすれば、磁力が強くなる問題では、全国の正答率78.0%に対して、本校は52.4%とおおよそ26%の差がみられた。一方で結果と基に結論を導いた理由を表現する問題では、60%の正答率であり、大阪市平均より約3%高い結果となっている。

質問調査より

『将来の夢や目標を持っていますか』の質問では、肯定的回答が大阪市、全国と比較してポイントが高く、各自が目標をもち、意欲があることがうかがえる。『学校に行くのは楽しいですか』の質問で、肯定的回答が、大阪市より低い。教科への興味関心、理解度を図る質問でも肯定的回答は低かった。学ぶ楽しさがさらに増す工夫が必要と考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

学力の向上：基礎になる知識や技能の習得を図る。そのために、PCを活用した反復学習や個別最適な学習を実施していく。また、対話的な学習を積極的に行い、他者と自分の考えを比べたり、深めたりすることで、学力の基礎も向上させる。併せて読書環境をさらに整え、読書を通して語彙力の向上を図る。学ぶ楽しさがさらに増すように授業等に工夫を図っていく。
学習による自信をつけさせながら、漢字検定・英語検定などを受験する『つくにし検定』に取り組む達成感に結び付ける。併せて学校行事や縦割り班行事を通して、自己肯定感や自己有用感の向上にもつなげていく。